

プレスリリース【新刊刊行】

2011年4月28日発信

報道関係者各位

チェルノブイリ事故関連書、新装版で2点刊行

フクシマ第一原発事故「レベル7」宣言以降の今、再読が求められるベストセラー

環境／社会問題を専門とする出版社・(株)緑風出版(りよくふう・しゅっぱん、代表=高須次郎)では、4月28日、1986年のソビエト・チェルノブイリ原子力発電所事故に関するベストセラー2点『ドキュメントチェルノブイリ』『チェルノブイリの惨事』を新装版として復刊しました。

『ドキュメント チェルノブイリ』は、チェルノブイリ原発事故から2年を経た1988年に刊行の旧刊を新装化。当時のソ連体制下の報道管制によって情報が極めて少ないなかで、現地紙をはじめとするソ連国内の各紙誌を原資料として、事故の全過程、深刻化する健康影響など事故の全貌を克明に、かつドキュメンタリーの形にして読み応えのあるものとした労作。著者、松岡信夫(まつおか・のぶお 1932~93)はアジア経済研究所研究委員などを経て、1978年創立の市民エネルギー研究所の代表を務めた、エネルギー問題の論客。

『チェルノブイリの惨事』は1994年、チェルノブイリ原発事故から9年目に刊行の旧刊を新装化。事故後約10年という時間の経過のなかで、核エネルギー利用の推進者たちが、事故をソビエト官僚主義の硬直した管理体制の問題に歪曲化し、専門家の研究報告の体裁をとって安全対策の「過剰」を指弾するなど、チェルノブイリの教訓をどう逆手にとって、フクシマに至る原子力再興の基盤を作っていたのか、また住民の安全よりも社会秩序維持と復興が優先されていたのかを、克明に報告している。著者のロジェ・ベルベオーク、ベラ・ベルベオーク夫妻はともにフランスの物理学者で、核・放射線問題に関するフランス科学者の情報グループ= GSIEN の世話役を務めながら、核問題・原発問題の研究に取り組んだ。訳者の桜井醇児(さくらい・じゅんじ)は富山大学理学部名誉教授。

[書誌データ]

『ドキュメント チェルノブイリ【新装版】』

松岡信夫 [著] ISBN978-4-8461-1107-6 C0036 四六判上製 382頁 本体価格2500円

『チェルノブイリの惨事【新装版】』

ベラ&ロジェ・ベルベオーク [著] 桜井醇児 [訳]

ISBN978-4-8461-1106-9 C0036 四六判上製 224頁 本体価格2400円

(株)緑風出版(りよくふう・しゅっぱん)は1982年の創立の専門書出版社(本社・東京都文京区本郷)。エコロジー・環境問題から内外政治・社会問題まで、現代と未来をみすえた書籍を刊行。2003年、優秀な出版活動に対し唯一贈られる第18回梓会出版文化賞を受賞。刊行図書に『ドキュメント日本の公害』、プロブレムQ&Aシリーズ等がある。



本プレスリリースに関するお問い合わせは、(株)緑風出版・営業部まで

TEL 03-3812-9420 E-mail: info@ryokufu.com